

今月の ひとこと

2013年が明けました。本年がみなさまにとってすばらしい年となるように願っています。2012年、私が選んだ「今年の漢字」は「芽」でした。色々なところで新しい芽が土から顔を出し始めている気がしたのです。今年はその芽がさらに成長し、双葉を付けてくれることでしょうか。とても楽しみな一年になりそうです。今年もクラブ・インベストラライフで長期投資の長旅を楽しみたいものです。

新春メッセージ



インベストラライフが発刊されて10年が経過した2012年12月、これまで応援下さった方々が集合して忘年会を開きました。その時にみなさまからいただいた新年のメッセージです。

[読んでみる](#)

「足下に泉あり」的生き方を語る

対談：浅野史郎氏 vs. 岡本和久



浅野史郎さんは宮城県知事として活躍されたあと、ATLという難病と闘っておられます。私は年金運用に従事していたころ、厚生年金基金連合会の運用部長だった浅野さんには仕事で大変お世話になりました。非常に厳しい運用環境のなかで年金運用革命に大きな力を発揮されました。どんな状況にあっても目の前のチャレンジと正面から取り組む浅野さんの姿と、障害を持つ方、病気で悩む人々に向ける暖かい、優しい眼差しは多くの人に生き方のヒントを与えるものだと思います。

[読んでみる](#)

中国がわかるシリーズ6 「戦国時代の始まり」

出口 治明

昨年来、「インベストラライフ」誌に寄稿していただいている中国史の連載です。いよいよ「戦国時代の始まり」です。

[読んでみる](#)

インベストラライフ応援団のブログ

あいうえお順、敬称略

紹介一覧はこちら

[伊藤宏一の「近現代日本と貯蓄」ー貯蓄は美德なのかー](#)

伊藤 宏一

[実践コーポレートガバナンス研究会・ブログ](#)

門多 丈

[会長 澤上篤人のレポート](#)

澤上 篤人

[右脳インタビュー](#)

片岡 秀太郎

[鎌田泰幸のブログ](#)

鎌田 泰幸

[世代を超える想いの滴](#)

渋谷 健

クラブ・インベストラライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズ のメール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月10日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、
クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlifeさんをフォロー](#)

- [2013年01月14日発行 Vol.121](#)

バックナンバー

2012年12月までに発行されたインベストライフをご購入いただけます。



[購入・詳細](#)

真マネー原理

滝沢 博文

一日一言ブログ

竹田 和平

セゾン投信・社長日記

中野 晴啓

SRIのすすめ 未来の測り方

速水 禎

馬淵治好の凸凹珍道中

馬淵 治好

About Money, Today

竹川 美奈子

出口治明の提言：日本の優先順位

出口 治明

CFA流「さんない」投資塾

日本CFA協会

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ！

尾藤 峰男

森本紀行はこう見る

森本 紀行

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

[読んでみる](#)

I-OWAたより

マンスリー・セミナー・レポート「病から学ぶ資産運用のポイント」

レポーター：川元由喜子、岡本和久加筆

私は8月に受けた人間ドックで胃がんが発見され、9月に胃の三分の二の摘出手術を受けました。現在、抗がん剤の治療中です。その過程で病気から資産運用のために有益な多くのことを学べることを発見しました。

[読んでみる](#)

マンスリー・セミナー・レポート「震災に遭遇して学んだこと」+ミニ対談（佐藤光一・島田知保・岡本和久）

レポーター：川元由喜子（講演）、赤堀薫里（対談）、岡本和久（加筆）

I-OWAマンスリー・セミナーで行われた佐藤光一さんの講演内容のサマリーです。実体験に基づく生々しいお話でした。そして、島田知保さんも加わり、ミニ対談を行いました。

[読んでみる](#)

岡本和久のI-OWA日記

新成人へのメッセージ 「インベストライフ」は無料となって1月15日に公開されます！ 今週の「小食知足」カリフォルニアのMerogold 資産運用「気づきのタネ」（88）ニワトリと卵に学ぶROE 新春の四日間 今週の「小食知足」浅草のかっぱ肉まん・太郎 明けましておめでとうございます 今週の「小食知足」八兵衛でお寿司 今週の「小食知足」熊本で出会った天草海鮮どん 「個人投資家宣言」を広めよう！ インベストライフの10年記念忘年会 12月のI-OWAマンスリー・セミナーを開催しました

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

当社が2005年10月から一回も欠かさず毎月行っているマンスリー・セミナーの予定です。毎回、私の資産運用に関するお話に加え、幅広い分野からゲストをお招きして講演をしていただきます。その後、参加者も一緒にミニ対談、懇親会と続きます。毎週第三日曜の午後12:30~16:30の開催です。また、ネットで後日、動画をご覧になることも可能です。受講料等については当社ホームページで。

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



A HAPPY
NEW YEAR

みなさま

明けましておめでとうございます。

本年も「クラブ・インベストラ이프」をよろしくお願いたします。

少しでもみなさまの長期投資・人生を通じての資産運用に役立つ情報・知識とお互いに支え合いながら学び合える「場」を提供したいと思っています。ぜひ、FACEBOOKやTwitterなどを活用して議論に参加していただければうれしいです。会報誌「インベストラ이프」も新しく生まれ変わります。みなさまとご一緒に、「クラブ・インベストラ이프」を大きな、大きな「輪」に育てていきたいものです。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

いつも「クラブ・インベストラ이프」をご支援いただいている方々から
新春のメッセージをいただきました

澤上 篤人



新年のメッセージ:

10年かけて種を蒔いてきたインベストラ이프活動が、いよいよ花を咲かせる時がきた。

2013年マーケットの注目点:

債券から株式への資金シフトが本格化する年で、やったぜの年になるでしょう。

伊藤 宏一

新年のメッセージ:

今年こそ長期投資の国民的元年！

2013年マーケットの注目点:

持続可能な日本を作る企業の動向に注視。デフレがどう転換するか。

野尻 哲史

新年のメッセージ:

アドレナリンを増やしたい。自分も投資家も投資家でない人も。2013年を面白い1年にしましょう。

2013年マーケットの注目点:

少額投資非課税口座＝日本版ISA(アイサ)が最大注目点！

菅 淑郎

新年のメッセージ:

環境のいい時、悪い時があっても、長期投資を探求すれば人生に大きな意味と成果をもたらします。気を楽に生きましょう！

2013年マーケットの注目点:

市場の動向は、全く気にしませんが、敢えていえば、日銀総裁の言動と去就でしょうか。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

村山 甲三郎



新年のメッセージ:

本当の変化は、起こる前に予測する事はできません。矛盾しますがそんな変化が起こると思います。

2013年マーケットの注目点:

マーケットとはお金の動く所です。お金が動くという意味では今年マーケット元年です。

大嶋 賢洋

新年のメッセージ:

やっと、劇的な変動の時が来ていると思います。その時に、このメディアの存続が輝く。

山岸 由美子

新年のメッセージ:

あきらめなくて輝いていく!

2013年マーケットの注目点:

私の場合は、見ない、聞かない。なので、待つだけです。

島田 知保

新年のメッセージ:

自分の知恵と時間とお金が、未来の自分を支える! そんな普通のことをみんなに広げていきたいです。

2013年マーケットの注目点:

他力本願では日本は再成しません。個人投資家の動向に願いをこめて!

尾藤 峰男

新年のメッセージ:

みんなの力でこの日本をよくしていきましょう。必ずよくなります。

2013年マーケットの注目点:

国民の自律的パワーでこの日本を変えられるか。変えるのは政治家でも役人でもない。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

河口 真理子



新年のメッセージ:

伊勢神宮の式年遷宮の年、20年に1度日本が再生する年。今年こそ、自然と共生する日本が再生する年になります。

2013年マーケットの注目点:

日本にしかない価値の再評価。顧客ニーズ優先でコスト度外視の日本のモノ作り、旅館のおかみのホスピタリティーという価値の再評価。

大江 英樹

新年のメッセージ:

力を合わせて「学び合い」の輪を拡大する年にしたいと思います。

2013年マーケットの注目点:

日本の長期金利 中国の政策

馬淵 治好

新年のメッセージ:

様々な災害、金融発の経済混乱の後、皆が幸せになる産業・企業を長期に支えるという気運がままる年が来そうです。

2013年マーケットの注目点:

中国の構造問題が吹き出し、米国がエネルギー輸出国に変貌しつつある中の、新世界秩序。

永沢 裕美子

新年のメッセージ:

^み巳には妊娠、誕生、始まりという意味があるそうです。2013年を新しい始まりの年にしましょう！

2013年マーケットの注目点:

円滑化法が終わります。政府の用意している出口作戦がうまくいくか。地方の金融機関、地方経済に差が。

岡本 和久

新年のメッセージ:

次世代のためになる新しい国造りが前進する年となりますように！

2013年マーケットの注目点:

デフレ先進国、日本の金利。米中関係。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」





「足下に泉あり」的生き方を語る

対談 浅野史郎氏 VS. 岡本和久

浅野史郎氏プロフィール

1948年生れ。宮城県仙台市出身。東京大学法学部を卒業後、1970年に旧厚生省(現厚生労働省)に入り、在米日本大使館一等書記官、厚生省児童家庭局障害福祉課長、厚生年金連合会年金運用部長などを23年7か月務めた後、退職。93年から2005年まで、故郷、宮城県の知事を3期12年務めた。“改革派知事”として全国に名をはせた。2009年、東京マラソンでは4時間15分で完走。



著書に『豊かな福祉社会への助走』(ぶどう社)、『誰のための福祉か—走りながら考えた』(岩波同時代ライブラリー)、『疾走12年 アサノ知事の改革白書』(岩波書店)、『運命を生きる—闘病が開けた人生の扉』(岩波書店)など。

浅野史郎さんは宮城県知事として活躍されたあと、ATL という難病と闘っておられます。私は年金運用に従事していたころ、厚生年金基金連合会の運用部長だった浅野さんには仕事で大変お世話になりました。非常に厳しい運用環境のなかで年金運用革命に大きな力を発揮されました。どんな状況にあっても目の前のチャレンジと正面から取り組む浅野さんの姿と、障害を持つ方、病気で悩む人々に向けた温かい、優しい眼差しは多くの人に生き方のヒントを与えるものだと思います。(岡本)

岡本 浅野さんが闘っていらっしゃる病気、ATL についてご存じない方も多いと思います。まず、どんな病気を説明していただけませんか？

浅野 色々な対談や取材があったり、講演の場を設けてもらったりしていただくのですが、私は喜んでお受けしています。と、いうのは私のなった ATL という病気は珍しい病気であるとともに情報があまり伝わっていない。医療機関の方もよくご存じない。そのことによる悲劇ということもあるの



長期投資仲間通信「インベストライフ」

です。そして、それを知ってもらうことによって救われる命もある。私もこの病気になり、一応回復したことに対するご恩返しと思いもあってこのような機会を通じてこの病気を知ってもらおうと思っています。

岡本 とても素晴らしいことだと思います。

浅野 ATL というのは知られていないということと同時に非常に新しい病気なんです。発見されたのは 1978 年です。まだ 35 年しか発見されてからたっていない。正確に言えば病気そのものは縄文時代からあった。しかし、それが ATL という病気として特定されてから 35 年という意味です。京都大学の高月清先生が発見し、ATL という名前を付けたのも高月先生です。日本語では成人 T 細胞白血病と呼ばれます。新しい病気であるということはこの名称にも表れています。病名の「成人」というのは実は「老人」という意味なのです。この病気が発症するのは平均的に 50 歳から 60 歳代ぐらい、私の場合も、2009 年に発症したのが 61 歳の時でした。昔は一般的に 60 歳までに亡くなる方が多かった。まあ、その年代になると何らかの病気は持っていた。この病気を特定するには患者数が少なかったのです。

岡本 白血病の一種ということでしょうか？

浅野 はい、白血病というと今はもう治る病気になっていますが 30 年前は不治の病でした。ATL というのは白血病の一種ですが、中でも最も致死性が高い病気であり、治療方法がないという極めて危険な病気です。

岡本 そのような病気になられて即座にそれを公表された。そこに迷いはありませんでしたか？

浅野 宮城県知事の時代、「情報公開の浅野」と言われていましたからね(笑)。慶応義塾大学で教えていましたからこれを休講しなければならぬ。当時、レギュラーのテレビ番組もいくつかありましたのでそれも休まなければならぬ。理由を聞かれて「一身上の都合で・・・」とは言えない(笑)。だから、病気のこと隠すという選択肢はありませんでした。それがテレビや新聞で報道されたわけです。特別の主義主張があってというわけではなく、当然のこととして発表をしました。あえて言えば、その時点である程度、世の中で知られていたということもニュースになりやすかったのだと思います。私はみんなに知ってもらって良かったと思っています。まあ、治ったからということでもありますが、多くの人に ATL の事を知ってもらうことが自分のミッションだといま考えています。

岡本 発症されたのは 2009 年ですね。

浅野 2009 年 5 月 25 日に告知を受けました。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本 生存期間の中央値が13カ月と言われたとか。それを聞いたときどんなお気持ちでしたか？

浅野 まず、告知されたこと自体は青天のへきれきではありませんでした。ATLはウイルス関与のがんです。これも世界で初めて発見された例なのです。いまでは子宮頸がんもウイルス関与だと分かっています。がんのうち四分の一とか、三分の一がウイルス関与だと言われています。ただ、ATLはその最初の例でした。私は発症する前からHTLV1の感染者であることはわかっていました。それで定期的な検診を東北大学の血液内科で受けてきました。それでも発症するのはキャリアのなかの5%なのであまり心配もせず、「念のため」という気持ちで受けていたのです。ですから、青天のへきれきではないにしろ、「まさか」という気持ちはありました。さすがに足が少しガクガクし、目の前が暗くなる想いでした。

岡本 そこから立ち直られたのにはかなり奥様の力添えがあったと資料で拝見しました。

浅野 それは違います(笑)。もちろん、妻が支えになったのは間違いないし、妻がいなければ命を失っていたかも知れません。そもそも、東北大学で検診を受けるようになったのも妻に手を引かれて行ったのが始まりです。それ以降、定期的に検診を受けていたので発見も早期ですみました。自覚症状は全然ないですからね。告知される2ヶ月前には東京マラソンを完走したぐらいですから。ですから定期的に検診をしていなければ手遅れになるまで気づかなかったかも知れない。その意味で妻に命を助けてもらったと言えます。

岡本 なるほど。

浅野 告知を受けて1時間後に妻と喫茶店にいて、そして、僕の口から妻に「俺、この病気と闘うぞ、そして勝つぞ！だから、支えてくれ」という言葉を言ったんですね。なぜ、そういうことを言ったのかは僕も良くわからないんです。ただ、口をついて出たと言う感じなんです。ところが、その言葉を言ったことの効果というのをはてき面でした。まず、言った途端に絶望感が雲散してしまっただけで、「戦闘モード」になった。



岡本 なぜ、そういう言葉がほとんど無意識のうちにでたのしょうね。

浅野 人は私の楽天主義のせいだとも言われますがそうではない。また、それは「勝つぞ！」という決意表明だったのかというところでもないんです。言ってみればそれに一番近いのは預言だと思



長期投資仲間通信「インベストライフ」

います。あとになって聞いた話でそれにぴったりだと思ったのは「根拠なき成功への確信」ということだと思います。それが一番、ぴったりくる感じですね。大事な点は「根拠なき」ということです。根拠なんかないんですね。むしろ、死ぬ確率のほうが高い。ただ、治ると感じる。それは預言です。あるいは神の声とでもいいましょうか。まあ、それを預言として聞いたと言うところに何かあったのかもしれないです。

岡本 預言を受ける準備があったということでしょうね。

浅野 絶望感でいっぱいだったのが「ホッ」としたらその預言がひらめいた。だから根拠がなくて当たり前なのです。その時の心の状態はずっと続いています。そして、それは良かったと思っています。まあ、誰でもがんの告知を受ければ、少しへなへなとなり、そこから「よし闘うぞ」という戦闘モードになる。それは珍しいことではないでしょう。私の場合は、それ以外のことは一切、考えなかったのです。

岡本 と、言うത്？

浅野 例えば市川団十郎さんも同じような病気になって、絶対に舞台に復帰するという思いがあったと思います。この仕事を完成させたいという思いを持つ方もいるでしょう。娘の花嫁姿を見たい、孫の顔が見たい、それまでは死ねないと言う人も多いと思います。私の場合、それまでの人生もそうでしたが、そのような人生の目標ってないんですよ。行きあたりばったりの人生です。目標は与えられる、運命というのかな、それが障害福祉の仕事でした。この仕事は自分から選んだものではなく、向うからきたんです。宮城県知事になりたいとも別に思ったこともないし、そのような人生を歩んできたわけでもない。決断は自分でするけれど向うからきた。前知事がゼネコン汚職で逮捕され出直し選挙となった。目標がないから、病気になっても失うものがなかった。娘の花嫁姿だって、孫だって、ひ孫だっていくらでも言いたしたらきりがない。でもみんな、どこかで必ず死ぬ。ただ、これが20代、30代でこの病気になっていたらやはり違っていたでしょうね。60代だから言えることかも知れませんが私の場合、目標がないということが精神的にすごく楽だった。

岡本 それは良くわかる気がします。もし、生き延びたらこういうことをしたいということはあるかもしれない。でも、このために生き延びなければならぬというのはすごい負担ですよ。そこに病気と闘うという気力のもとがあるのかも知れませんが、まあ、そこそこの年齢まで生きて色々なことを楽しくやってきたということで、気楽に病気と付き合えるというような気はします。

浅野 闘病中にいくつか言葉を作ったんですね。さっきの「根拠なき成功への確信」というのもそれです。それから、これは借りてきた言葉ですが、「足下に泉あり」です。ゲーテの言葉らしいです。以前、厚生省の職員研修などで講師としても言っていたし、知事として訓示をするときにも使っていました。これはどういうことかと言うと、組織人としての仕事の仕方、自分もそうしてきたというこ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

とを紹介するときに言っていました。組織ですから人事異動がある。それは自分の意志ではなく上からくる。その与えられたポジションが満足がいくというのは珍しい。不満なケースが多い。仕事がつまらない、上司がアホだ等々ですね(笑)。でも、「つまらない、つまらない」と思って暮らしても3年、「この仕事は面白い」と思っても3年。「だったら面白くしようよ」ということです。そういうときは自分の足元を掘ってみなさい。それが「足下に泉あり」ですね。足元から泉が湧いてくる。とにかく、「嫌だなあ」、「次の人事異動はいつだろう」と思って仕事をしていても面白くない。また、「こういうことをしたら上司に評価され昇進できるかも知れない」という思いも捨てなさい。ただ、足元をしっかり掘りなさい。掘れば必ず泉が湧いてくる。必ず湧いてくる。それが大切な点です。これが仕事をする上での楽しみのようなものです。私も障害福祉の仕事をして本当に満足だった。その満足感は今でも続いています。闘病も同じでした。「今の俺がやることは、病気と闘うことだ、それだけに集中しよう」と心構えとして持っていました。それからですね、「闘い」ということです。障害福祉の仕事をしているときも闘いでした。敵は世の中の無知、無関心。それに向かって闘った。闘いというのは楽しいものです。エキサイティングです。女子サッカーのなでしこジャパンがピッチに立ったときは、たぶん、楽しいという思いだったのではないのでしょうか。闘病もそうです。

岡本 それは、今お話を伺っていて「そうだな」と思いました。私も胃がんの告知を受けた時、とても不思議なことに妙な高揚感を感じたんですね。急に生きているということに大きな意味ができてきたような。ショックはショックですよ。でも、自分でも不思議な感じでした。

浅野 そうですよ。共通の経験ですね。敵が強大であるほど気持ちの高揚がある。軽い風邪を引いて風邪と闘うと言ってもあまりそれはないでしょう(笑)。

岡本 ある意味、命をかけた闘いです。

浅野 文字通りそうですね。

岡本 そういう意味ではとても貴重な体験です。

浅野 そう思えるかどうかですよ。そして闘いは一人で闘うのではない。私が障害福祉の仕事をしていたときに非常に満足だったのは一緒に闘う仲間がいたということです。仕事をしている時のイメージはみんなでスクラムを組んでいる感じでした。私は厚生省のなかで色々と人事異動がありました。ご存じのように年金の仕事もしました。色々な場面で自己紹介をするとき、「私は厚生省の人間で今、年金の仕事をしています」というわけです。それが障害福祉課長の時には違ったのです。「私は障害福祉の仕事をしています。そして、たまたま、今、霞が関の厚生省に所属しています」となったのです。一緒にスクラムを組む仲間も障害者自身、親たち、ボランティア、学者、マスコミなどで、色々な人と連帯をしていた。闘いは障害福祉で敵は世の中の無知、無理解というみんなに共通の敵です。仲間がいることが力になり楽しみにもなる。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本 自分の天職というか、ミッションがあって、そのミッションを達成するための手段としての組織がある。それは本当のプロフェッショナルリズムだろうと思います。

浅野 障害福祉課長の時にそれを一番強く感じました。闘病も決して一人で闘っているのではない。妻や子ども支えてくれる、友達が応援してくれる。

岡本 メールを一本送ってくれるのだから力になる。

浅野 そうです。精神的安定が得られたと言うのが大きかったです。

岡本 入院されていたのは8カ月ですね。

浅野 そうです。2009年6月4日に東大医科研に入院しました。幸いドナーが見つかり、同年10月に国立がん研究センター中央病院に転院、骨髄移植を受け、2010年2月3日に退院しました。医科研でも、がんセンターでも担当のドクターは二人ぐらいです。看護婦さんは延べにすれば10人ぐらいいるわけですね。みんな、名札を付けている。それをのぞいて名前を書きとめておく。次に来た時はフルネームで呼ぶんですよ。そうするとみんなびっくりするんです。それでやはりうれしいんですよ。自分の名前を、姓も名も両方で呼んでくれる。ただ、顔と名前がなかなか一致しない。それで特徴を書いておく。美人とか、背が高い、太り気味とかね(笑)。そうしたらそれを看護婦さんに見られてしまった(笑)。まあ、結果的には看護婦さんにも喜んでもらえたと思っています。ある意味、ヒマだったからやったということでもありますが、結果的には看護婦さんにも喜んでもらえた。

岡本 私も次回、入院するときはやってみます(笑)。

浅野 私はとても良い、信頼できる医者に出会ったんですね。幸運でもあったのですが、同時に信頼できる医者は患者が作るのも思っています。信頼というのは相互関係です。一方的であるはずはない。ですから、私が信頼できる医者に出会ったということは、私も信頼できる患者だったということでしょう。では、信頼感はどこから生まれるかと言えばコミュニケーションです。コミュニケーションを通じて初めて信頼が生まれる。コミュニケーションというのはインフォメーシ





長期投資仲間通信「インベストライフ」

ョンの交換です。例えば東大医科研の先生からは生存期間中央値(余命)が13か月と聞かされました。もちろん、それはショックですが、でもそれは中央値、半分の方はそれ以上生きるのだと理解できる。骨髄移植の前のオリエンテーションでも致死的な合併症が10~30%起こるという話を聞く。要するにきちんと自分が直面しているリスクを理解したうえでリスクをとるわけです。

岡本 医者がすべてをきちんと話してくれることが安心につながりますよね。例え、悪いことであってもね。

浅野 それと対照的だったのが2011年の原発事故の対応です。国民にとって重要な情報を隠したり、パニックになるのを恐れて修正したりして伝えた。その結果、信頼を失うことになった。結局、Well informed panic(情報を知ったうえでのパニック)とuninformed panic(情報を与えられないことによるパニック)があるのです。ですから危機管理を考えるうえでは情報提供が必要なのです。医療のinformed consentも同様で、良い情報も悪い情報も与える。私も一瞬はおびえました。でもそれはwell informed panicだったのです。そして、それは、そのような情報を伝えてくれた人に対する信頼にもなるのです。また、情報に対してわからないことがあったら教えてもらう。先生がちょっと時間のありそうな時に疑問点を聞く。聞くときも的確に聞くことが重要です。正しい質問を端的にする。そして、先生の説明を分かろうとする。最後には先生が「浅野さんという患者に出会ってよかった。患者が何が分からなくて、何を知りたいと思っているかが分かった」と言ってくださった。さらに、そのドクターはもうその仕事を辞めようと考えていたようなのです。でも、「浅野さんを患者にしてやり続けよう」と決めたと言ってくれた。うれしいですね。

岡本 ドクターを治してしまった(笑)。

浅野 ちょっと言い過ぎかも知れませんがね。ある意味、先生もこちらを信頼してくれたから、こちら先生を信頼できた。そして、信頼があると効果も上がる。

岡本 面白いですね。お話を伺っていて資産運用と非常に似ている点が多いと思いました。例えば「信頼できる医者は患者が作る」というのは、「信頼できるファンドマネジャーは投資家が作る」というのも、同じかもしれない(笑)。ファンドマネジャーと投資家の間の相互の信頼というのが長期投資では絶対に必要です。そのために、お互いが対等な立場で情報を交換し合って納得しあっていることが大切です。暴落などが起こったときも情報がきちんと開示され、それを投資家が理解する。そのようなことが非常に重要です。年金運用でもそうですね。

浅野 そうですね。似ていますよね。

岡本 しかも、投資の場合は普通は命に別条はない。疑似体験としては非常に有効な学びの機会ではないでしょうか。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

浅野 絶対、大丈夫ですよと言ったような悪い運用機関もあるじゃないですか。リスクを言わない。良い運用者はリスクを言ったうえで納得してもらって。そして継続的に状況を開示し問題を共有していく。それが良い運用者で、良い患者なんじゃないかな。

岡本 浅野さんが良く言われる「ザ・チャレンジド」という言葉を私はとても気に入っています。

浅野 障害福祉課長としていた時に聞いた言葉です。なかなかいい言葉です。障害を持っている人は神様に選ばれた人だということです。神様からチャレンジを与えられて、「さあ、これを跳ね返してごらん」と言われている。つまり、チャレンジを受けている人なのです。障害者はあわれで、可哀そうだから何かいいことをしてあげるとするのが普通の考えですが、この言葉は「選ばれた」、「神様が選んでくださった」、そこに誇りのような意味がある。そして、それをチャレンジとして「跳ね返してごらん」という課題を与えられた。いい言葉だなあと思います。

岡本 チャレンジをポジティブに受け止める。あえて言えば神様の「お恵み」のような意味もある。以前、障害を持っている方と話していた時、ハンディキャップというのは協会ですべてを集めるためにキャップ(帽子)を回すというところからきている。人から施しをもらう。でも、チャレンジド・パーソンというのは「挑戦を受けて立つ人」という意味なんですと聞いたことがあります。そこに何か誇りを感じますね。また、名古屋の竹田和平さんも病気が天が与えてくれたチャレンジとして「ありがとう」と感謝するとおっしゃっています。

浅野 病気というチャレンジをもらった。病気のおかげで神様からミッションをもらった。そのミッションとは、同じ病気で苦しむ人のために役立ちたい。ATL は新しい病気で情報が少ないのです。同時にその治療法は日進月歩なのです。情報がどんどん古くなってしまふ。ネットなどで読んでみると ATL になったらもう助からないというような悪い情報がたくさんある。10 年前はその通りでした。それがまだネットに載っている。そしてパニックになるという悲劇もある。正しい情報を提供していきたいというのが一つのミッションです。そして、ここに ATL を克服した人がいるという事実、私は存在しているだけで「還暦 ATL 患者の星」だと言われています(笑)。私が回復をしているのを見て、今、病気と闘っている人が勇気づけられる。面と向かって「浅野さんに ATL になってもらってよかった」と言っていたケースもありました。そのような役割の果たし方もあるのかなと思っています。ATL ネットというのを今、作って情報発信をしています。その意味ではこの病気になって「良かった」とは言いにくいけど、悪い面ばかりではなかったと思いますね。

岡本 今日は貴重なお話をありがとうございました。どうぞお大事になさって「ATL 患者の星」だけでなく「日本の星」になってください。



【中国がわかるシリーズ6】

戦国時代の始まり

出口 治明

戦国時代の始期については、いろいろな説がありますが、ここでは、春秋時代の覇権国、晋が、BC453年、趙、韓、魏の3国(いわゆる3晋)に実質分割された年をもって、春秋時代と戦国時代の分水嶺とみなしておきたいと思います(他に、BC475年説、BC403年説などが唱えられています。なお、大国、晋の最後は、「士は己を知る者の為に死す」と言明した忠臣、豫讓が、飾ることになりました)。

[西]漢の劉向によって書かれた「戦国策」がその名の由来です。戦国時代は、七雄と呼ばれる大国が活躍しました。三晋、燕、齊、秦、楚の七国がそれで、周王室を含めた小国は、更に、その影が薄くなりました。七雄は、それぞれ天命を得たと主張して王を称したのです。周王室の権威の呪縛から、春秋時代の300年を経て、ようやく自由になったのでしょうか(しかし、七雄が王を主張する論拠は、夏商周3代のいずれかから引かれており、決して聖王伝説の呪縛から完全に自由になっていた訳ではありませんでした)。7国にとっては、それぞれの本拠地が中国(中華)で、その他は夷狄の地であったのです(この自国を第一に据える論理は、いずれ後述する東アジア冊封体制の中で、周辺国にも蔓延していくことになります)。

戦国時代に入ると、鉄器が広く用いられるようになり、牛耕と相俟って農業の生産力が飛躍的に増大しました(西アジアの鉄器が、鍛鉄から始まったのに対して、中国では鉄器は、鑄鉄から始まりました。鑄鉄の製造には、より高温の技術管理を必要としますが、ふいごや坩堝は、既に中国では開発済みでした。これは、高度な青銅器技術がもたらしたものです。もっとも、青銅器の技術が高かったため、鉄器の開発が遅れたという側面も否定はできません)。鉄器の活用により、水田も方形に整備されるようになり、生産力が増大したのです。その結果、人口も急増し、大国(7雄)は大規模な軍を動かせるようになりました。当然、自然破壊も一段と進んだことでしょう。商の時代、中原では鬱蒼とした森林が繁茂し、頻繁に象や犀の姿が見られましたが、都市化の進展とともに、森林は急激に減少していきました。河川の氾濫も、この自然破壊と決して無縁ではありませんでした(禹の治水伝説はこうして生まれたのです)。戦国時代という中国史上屈指の高度成長経済の時代を経て、森林や沼沢は姿を消し、黄河は黄濁し、黄土高原の乾燥化が進展したのです。

また、戦国時代には、漢字が祭祀文字から行政文字へと変化し(この間、約1000年を要しています)、各国は、王を頂点とする律令法体系を作り上げ、官僚を使った文書行政を開始しました。い



長期投資仲間通信「インベストライフ」

わば、漢字を扱う書記は、祭祀官から官僚に転進したのです(一部は、更に、諸子百家へと転進することになります)。文書行政が定着すると、上級官僚、下級官僚、支配される民衆という3つの階層が生まれます(上人、中人、下人)。なお、律令が分化(律=刑法、令=その他の民法)するのは、700年後、[西]晋以降のことになります。このように、漢字が広く用いられるようになったので、史料も格段に豊富になりました。誤解を恐れずに述べれば、戦国時代に書かれたものを、漢の時代に整理、体系付けたものが中国の古代史(料)なのです。従って、これらを、読み解くに際しては、戦国時代の視点、漢の視点を忘れる訳にはいかないのです。

戦国時代に至って、都市国家の時代は最終的に終わりを告げ、新石器時代の文化地域を包含した領域国家が、中国で初めて生まれることになりました。春秋時代までは、戦争に敗れても、祖先の祭祀を行うため、国の滅亡は免れましたが、戦国時代に入ると、そのような配慮はなくなりました(敗れた国はもはや滅びるしかなかったのです)。従って、鉄製の武器の使用(ただし、鋭利な青銅製の武器も、始皇帝の時代までは使われ続けました)と相俟って、戦いは、一層、過酷なものとなっていったのです。

戦国時代、最初に覇を唱えたのは、魏の文侯(BC424年即位)でした。魏は、解池(山西省の塩湖)を含めた中原地方を領有しており、経済力(塩の独占販売)や地の利に加えて、名将、呉起(?~BC381年)を登用して、秦を破りました。呉起の軍は、新兵器である弩で武装しており、当時の最強軍だったのです。呉起は、後に楚の悼王に仕えて国政の改革に尽力し、兵家としての名声を博しました。

戦国初期の人、墨子(?~BC390頃)は、こうした自然破壊を憂い、節約型社会、小国を理想とする立場から、兼愛(普遍的な人類愛)、尚賢(出身に囚われない人材活用)と非攻(専守防衛、非戦論)など10論を説いて、儒家と並ぶ、一大教団の祖となりました(儒家とは、厚葬の是非等を巡って激しく対峙したのです)。現在では、儒家、墨家、兵家、道家(老子)などは、あまり時をおかずして、同じ頃に誕生したと考えられています。墨家は、その強固な教団性の故に、後に、始皇帝や[西]漢の弾圧を受けて、姿を消すことになるのです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本和久の講演より

レポーター:川元由喜子、加筆:岡本和久

私は8月に受けた人間ドックで胃がんが発見され、9月に胃の三分の二の摘出手術を受けました。現在、抗がん剤の治療中です。その過程で病気から資産運用のために有益な多くのことを学べることを発見しました。

病から学ぶ資産運用のポイント

(2012年11月、I-OWAマンスリー・セミナーでの講演の抄訳です)

病気の治療のプロセスというのは、ふつう、何かいつもと違うという自覚症状があり近所のかかりつけの医者にご相談する、お医者さんも「どうもおかしい」ということになって精密検査をする。診断をしてやはり、病気であることが判明し、医師の説明を受け、その説明に基づいて、患者として色々な情報を集める。セカンド・オピニオンをとって治療方針を決める。そして、入院、手術、治療、退院、自宅療養、そして職場復帰・日常生活、ということになります。要するに、状況を把握すること、それに対して戦略を立てるということ、そしてそれを実行し、更に、検証しながら回復過程を確認していく。こういうプロセスになります。

このプロセスは、資産運用にも参考になります。ポートフォリオが病気になってしまったらどうなるか。最初に「病気じゃないか」と気付くのは、やはり普通は個別銘柄の値動きなんですね。保有銘柄のいくつかがすごく下がっているということに気づきます。その場合、まず最初に検証しなければいけないのは、一つの銘柄・一つの投信だけが極端に下がっているのか、あるいは似たようなグループの投資対象が全体的に下がっているのか。そのチェックが最初のポイントです。もうひとつ重要なのは、その値下りの全体に及ぼす影響が大きいのか、小さいかということです。特に個別銘柄ではなく、グループとしての値下りの場合、それは重要です。

値下りが一銘柄だけの現象だとしましょう。まず考えることは、なぜその銘柄を買ったのか、自分自身で振り返ってみる事です。つまり、いい会社だと思い、自分も是非応援したいという気持ちがあったのか、それとも、たまたま友だちにすすめられて買ったのか、チャートを見て何となく反発しそうだと思って買ったのか。買い付けの動機によって、持続か、損切りか、という選択肢になります。本当に好きで応援したいと思って買ったのであればその気持ちが変わらない限り売る理由はないでしょう。

損切りルールとしては、まず明らかに自分の判断が間違っていた時。いい会社だと思って買ったけれど、実は大して良くなかった。もうひとつは、購入時点と明らかに会社が変わってしまった。す



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ごくいい会社だったのだけれども、その後、経営陣が変わってすっかり悪い方になってしまった。それから、資産配分の変更の結果ということもあります。例えば、年齢を考慮して株式の比率を下げようとしている。その過程において、ロスが出ていても、大した理由で買ったわけでもない銘柄ならば売却するということもあると思います。今、持っている銘柄よりもはるかに魅力的な銘柄が見つかった、という可能性としてはあります。ただこれはなかなか難しい。はるかに魅力があるかどうかというのは、結果を見るまではなかなか分からないものです。これを頻繁にやっても乗り換えた銘柄が値上がりするとは限らないし、結局、過剰売買で儲かるのは証券会社だけともなりかねないので注意が必要です。

全体に対して影響が大きい場合はどうか。まず基本的問題の解明が二つの視点から必要です。一つは、株式・債券、国内・国外の配分比率が、自分の望むようなきちんとした姿になっているか。どこかが大きく歪んでいるということが無いかどうか。全体の歪みをまず見るということ。2番目に、株式や債券などの投資対象が十分に分散されたものであるのか。例えば外国の債券だとして、中味を見るとほとんどがオーストラリア・ドル建ての債券だったらリスクが高い。当然、通貨のバランスも必要です。また日本株の比率が適正であってもその中身が1銘柄だったらすごくリスクが高いですよね。十分に分散された、資産クラス全体としてのリターンがとれるような投資信託はETFへの入れ替えが必要になります。

それに基づいて、中立で利益相反が無い人からセカンド・オピニオンをとってみる。自分の問題点の把握が正しいかどうかを確認するのです。そして、ポートフォリオ・リストラ計画が策定される。それを短期間にあるべき姿に戻すのか、或いは時間をかけて、積立額や売却額の調整によって行っていくのか。一気に手術で悪いところを取ってしまうのか、薬で様子を見ながら抑え込んでいくやり方なのか、ということですね。



病気は「早期発見が大切だ」とよく言いますが、これは幸運の賜物であって、なかなか簡単にはいかない。私が早期に癌を発見できたのは運が良かった。相場もそうですね。暴落の早期発見ができれば、幸運の賜物です。大体そういうことは的確にわかるものではない。皆が危ないと言っている時にはもうみんな売ってしまってるから、そんなに下がりはないということもある。皆がまだいける、と思っている時こそ大きなリスクがあるということもある。まさに「もう」は「まだ」なり。「まだ」は「もう」なりです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

早期発見が現実には難しいということであれば、定期的な検診・治療・人間ドック、体の発する声を聞くというようなことが大切になってくる。資産運用でも的確なモニタリングとリバランスで、大きな歪みが生じていないかどうかをチェックすべきです。それから、基本的に、世界経済・景気・金融・社会の長期的なトレンドに興味を持つ。しかし、気をつけなければいけないのは、毎日毎日のマーケットの変化にあまり敏感になると、かえって危険だということです。あくまでメガトレンドに注目する。メガトレンドは言葉の定義からして短期で変わるものではない。その変わらないものに注目していく。「不易流行」という言葉があります。「不易＝変わらないもの、流行＝流れゆくもの」、です。変転極まりない「流行」に踊らされるのではなく「不易」に注目する。例えば今で言えば、世界には70億の人口がいて、それが今世紀の中ごろまでに90億になり、発展途上国の生活水準もどんどん向上していくし、グローバル化も情報化ももっと進む。こういった大きなトレンドは短期的な変動はあっても長期で変わるものではない。そういうところをしっかりと押さえるのが大事だと思います。

あとは、大きな病気にならないような暮らし方。早寝早起き、腹八分目…これについては小食知足・菜食健美、酒はほろ酔い、つまり少し食べて満足する。これがなかなか出来ないのですけどね。菜食中心に健康で美しくなろうというわけです。色を慎め…この辺りは大丈夫。一日一万歩、瞑想を欠かさない…心を休ませる時間を持つ。そんなことに注意していれば、寿命を生きることが出来るのだらうと思います。

「良い人生を生きる」というのは与えられた寿命というリスクのなかで得られるリターンを最大化するようなものだと思うのです。ちょっと難しく言えば効率的フロンティア上のリターンだと思うのです。そのためにはムダなリスクをできる限り取らないようにする。つまり、生活習慣をきちんとすることが重要なのだらうと思います。

リスクとリターンについてはこんなことも思います。リターンというのは薬の効果です。しかし、副作用のない薬はないと言います。つまり、副作用はリスクなのです。リターンを得るためにはリスクを取らねばならない。がんに克つというリターンを得るためには副作用をう抗がん剤治療が必要というのと同じなのです。ですから、いかに効果のあるリスクを取るか、いかに報われるリスクを取るかということが病気でも資産運用でも重要なのです。

資産運用のでは大きく間違えないことが大事です。自分の置かれた環境に合った基本ポートフォリオを選択し、基本ポートフォリオに忠実な資産配分の選択をする。資産クラスの中味は十分な分散が行われていることが重要です。そして、投信を選択するときはコストに注意する。個別銘柄を売買するときも無駄な取引をしないで委託手数料をできるだけかけないように心掛ける。そして資産配分を維持していく。大切なのは、「木を見るのではなく森を見る」ことです。金融資産全体がどういう動きになっているか、それに注目をする。十分に分散されていれば、ポートフォリオのなかの1銘柄上がっていようが下がっていようが全体にとってはあまり関係が無い。皆さんの将来の生活



長期投資仲間通信「インベストライフ」

を支えるのはあくまで金融資産全体です。

もし不幸にして体やポートフォリオに病気が見つかったらどうするか。とにかく事実を認めて病気を直視する。現実を受け入れて、何が悪いのか、何をしなければいけないのか。それを粛々と進めていくより仕方ないのです。運用もそうです。事実を認めて問題点を直視する。損失をはっきり認識して時には損切りも必要。ポートフォリオのリストラを行う。

最低限の知識を得るということも大切です。医者のお話が分かる程度の知識は持つておくべきです。専門知識は不要ですが、わからないことは徹底的に聞く。私のちょっと恥ずかしい体験談を紹介します。「がん友」が、自分はステージ4の末期だと言っているのを聞いた時、たしか自分の診断書には5という数字が書いてあったことを思い出したのです。「4で末期なら5はもうダメなんじゃないか」と一瞬ショックを受けたのです。よく調べてみると私のは「グループ5」なんです。グループ1と2が陰性、3が偽陽性、4と5が陽性。つまり「はっきりと癌です」という意味のグループだったんです。「ステージ」というのは全然違って胃がんでいうと胃壁のどのくらい深くまで浸潤しているかとリンパ節への転移の度合いで決まるものです。これらによって、4つのステージに分かれている。これによれば私はステージ1。「ああ、良かった」と胸をなでおろしました。これも基本的なことを知らないとショックを受けてしまう例です。

運用でもファンドマネジャーの言っていることがある程度分かるぐらいの知識は必要です。難しいことは要りませんが、運用がまずくて結局、困るのは投資家です。だから、人任せではいけない。その意味で運用会社と投資家の距離が近い「直販」投信の価値が大きいのです。販売会社が間に入ると投信会社は誰が最終投資家かを知らないし、投資家も自分のおカネがどのように運用されているのかは十分にわからないことが多いのです。

病気と聞くと、善意の「お勧め」がたくさん来ます。医者のお紹介、代替医療、サプリ等々、送って下さる方も多い。私もそうでしたがとても全部は試せない。同様に、投資を考えてるといって、たくさんお勧めが来ます。営業マンも攻勢をかけて来ますし、他にもみなさん善意なんです、アドバイスも色々してくれる。でも結局は自分の決断。自立してなければいけない。結局、困るのは自分ですから自己責任です。その意味で情報の選択ということが重要で、その選択の基準となるのが中立の立場の人のアドバイスだと思います。私はクラブ・インベストライフがそのような「場」に育って行ってくれれば良いなあと思っています。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

佐藤光一氏講演

震災に遭遇して

(2012年11月に開催されたI-OWA マンスリー・セミナーにおける講演の抄訳です)

福島県南相馬市でネクストライフ・コンサルティングの代表を務められる佐藤光一さん(人呼んで、「ピカイチ先生」)は2011年3月11日の東日本大震災とその後の原発事故で大変なご苦勞をされました。被災後の生活、避難生活、子育て家族の苦悩、そしてどんな準備が必要なのか、生々しいお話を伺いました。

南相馬に住んでいて被災しました。震災の前は、もしものときに生き残るために、あれこれ一生懸命考えて実行していました。しかし今は「生き残った」のではなく、「生かされている」者として何をすべきか、というふうに考えるようになりました。確かに自分たちは被害者ですが、現役世代としての私は、次世代としての子どもたちに対して加害者です。そういう立場で次世代の人たちに何を残すか、何ができるかを考えています。子供たちに恥じない後姿を見せる、これだけは心がけて努めています。



自宅は、事故のあった第一原発から20キロ以上30キロ以内の「緊急時避難準備区域」にあり、原則は住んでいてもよいけれど、原発で緊急事態が発生した時には自力で安全な場所に避難するという条件付きでした。ということは子どもや病人は「いちゃダメ」ということになりますから、子育て家族にとっては強制避難と同じです。しかし、なかなか周りにはその事情を理解してもらえないという問題がありました。また避難したほとんどの子育て世帯では、父親の勤め先が事業を継続していたために、家族が分断されるということも起こりました。

避難の判断は、自分でしなければなりません。テレビでは、「×××が起きてるみたいですが、大丈夫です」が繰り返されるばかりで事実がどうなのかという情報は何も入って来ない。放射能が飛んできているのかどうか見るために、1時間おきに窓の外の本がどちらに揺れているか見ていました。避難しようと決めた時、高校生と中学生の子供たちには、「今、原発はとても大変なことになっているのかもしれない。実は全ての人を助けられなくて、自分たちは見捨てられたのかもしれない。これが現実だ」と話し、「もしもの場合は自分で考え、一人で逃げろ。パパもママも精一



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

杯逃げるから」と念を押しました。そのくらい切羽詰まっていたんです。

実際の避難生活は、東京で2週間過ごした後、新潟県上越市にお世話になりました。新潟は中越地震を経験していますから、困っていることが先に分かっていて、どんどん進めてくれました。子どもの学校の準備など、とても恩義を感じています。「仮設住宅」も、一週間ちょっとで何百世帯という空き部屋を用意してくれたのです。一生懸命やって下さったと思います。

講演ではこのほか、地震に対しては事前の備えが全てだ、津波などの異常事態下では正常時のルールは意味が無い、など被災経験からの教訓や、避難生活の実態について、詳細にお話しただきました。その後のフリーディスカッションでも、南相馬に戻ってからの生活についてなどのお話が続きました。

ミニ対談

佐藤光一氏、島田知保氏、岡本和久

岡本 佐藤さんのお話は貴重な体験談ですが、決して、我々にとって遠い出来事の話と捉えてはいけないことですよね。本当にご苦労されたのだなと思います。その中でおカネのことについていうと、預貯金よりは、とにかく現金。その場をしのげる為には現金が100万くらいあれば一番安心ということでしょうか。



佐藤 うちの場合は現実的には、3か月分を現金で持っていました。もともと6か月分は生活応援資金と決めて現預金にしていました。3か月分は預貯金、3か月分は現金を家に用意しておいたので、その時は現金を掴んで逃げました。

岡本 でも、現金を持っていないご家庭はどうしたのでしょうか。

佐藤 ひとつは郵便局が一律10万円、通帳がなくても出してくれました。

岡本 それは、口座から出してくれたのですか？



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

佐藤 いや、口座というわけではないですね。津波の人は通帳も印鑑も失くしていますから、住所と名前を書いてくればという事で出してくれました。そうしないと生きていけませんからね。

岡本 それは、民間のメガバンクとかでもあったのですかね。

佐藤 それは聞いていないですね。やはり郵貯だからできたのでしょうか。実際に郵貯に勤めている人に「全部戻ってきた？」と聞いたところ「いや、半分くらい」と言っていました。でも律儀に、「家族が他の郵便局で貰ったから」といって、返しに来た人もいたそうです。

岡本 現金で持つということの必要性というのは、本当に新しい視点ですね。ポートフォリオとは別にして、緊急用に持って逃げる為の現金は、掴みやすいところに置いておくことでしょうか。

島田 でも今の若い方達は、ほとんどカードで支払い現金を持ち歩かないですね。

佐藤 そうすると、着る物も途中で買えない状況になりますよね。

岡本 いろいろ現政権(当時、民主党)の良い点、悪い点があったと思いますが、こういう誰も経験をしたことのない状況の中で、全体的に国の評価はあまり良くないというのが一般的ですが、そのあたりはどうでしょうか？

佐藤 現在も全然進んでいませんね。でもこれはしょうがないと思っています。よく言われるのが「幸せな家庭はだいたい似かよっているけど、不幸な家庭はみんなそれぞれ違う」と。実は今それが、現場で起きています。ただ行政では一つネックがあって、補助金だろうが援助だろうが、公平感のもとで行われます。だから当然のことながら痒いところに手が届かないわけですよ。

島田 それはそうかもしれませんね。

佐藤 私は今、ハローワークで再就職支援のお手伝いをしていますが、南相馬市の求人倍率をご存じですか。実に 1.68 倍なのです。100 人の方が職を求めているのに対して、企業側は 168 人求人を出している状態です。経営者の方達にお話を聞くと、人が来ないので事業を戻せないそうです。今、市の人口の35%が減っています。内訳として、25%が市外に避難され、10%が既に転居届を出されたか津波で亡くなられています。私の娘が今年から高校に入学しましたが、例年の定員の半分しかいませんでした。それから見ても、子供とその親世代の半分が戻ってきていないのでしょうかね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 戻ってこないというのは、やはり原発のリスクが大きいからですか。

佐藤 そうです。だから人口構成がすごくいびつになっています。スーパーへ行ったら高齢者ばかりです。仮設住宅の入居者もほとんど年配の方達ばかり。三世帯家族なんかは、おじいちゃんおばあちゃんだけ残って、子どもと孫は避難です。企業さんも事業をやろうと求人を出しても来ないですよ。また、原発関係の除染作業がいいお給料をだしているので、企業さんがそれに見劣りしないだけの金額を出せず、結局、求人を出すのをやめてしまう場合もあります。行政の仕事をされる方々も家庭人としては民間人と同じですよ。単身赴任で一生懸命復興に頑張ってくれましたが、小さな子がいる家族は避難したまま移住してしまい、かなりの方が一年たって辞めています。でも仕事はずっと増えている状態です。街のなかの除染作業も手付かずの状態です。行政も人がいないし、街も老人ばかりだからやる人がいない。各個人の家庭も企業さんも行政さんも人が足りない。だから動けないというのが現状です。

佐藤 うちの子供は、テレビのニュースはテレビ局の意見であって、本当のことを伝えないと言っています。例えばある人が「死の街」と言ったということが報道され散々、非難されていましたよね。でも我々震災した者にとって、死は隣り合わせなのです。仲間内の死なのです。息子の通う高校は、東京ドームが6個か7個入る大きな校庭の為、自衛隊の前線基地になりました。そして、体育館は遺体の安置所になりました。しかし、今もそのままその体育館を使っています。掃除して使う時に校長先生がこう言いました。「自衛隊の方が亡くなられた方を一人一人お連れして、プールの中できれいな姿にしてくださって、この体育館に運んできました。ここの体育館から我々仲間が最後のお見送りをしたのです。だから、ここはみなさんの家の居間と同じです。決して汚れていません。このまま使います」と。子供達は死というものに対して当たり前のように接しています。決して、死というものが汚いという感覚はありません。テレビ局側の持つ死の定義とは全然違いますよ。南相馬のその厳しい現実を経験してきた子供達は、逞しいかもしれませんよ。将来が楽しみです。

岡本 インベストラ이프で今年の8月、9月と2か月にわたり、戦中、戦後の引揚者の方々のインタビューをしました。あの体験をした人達は、常に死と隣り合わせでした。赤ん坊を連れて帰れないということで、満州から引き揚げる時に橋の上から子供を投げ捨て、その音が「ぼちゃーん、ぼちゃーん」とずっと聞こえたというコメントがありました。また、子供が飢え死にしてしまったので、せめて、公園の一角にある友達のお墓の隣に埋めてあげた。翌日、お参りに行くと、トラクターで既に整地され「日本人と犬入るべからず」という看板があったとか。そういう極限的な状態で過ごされたお話をたくさん伺いました。そのような状況を通ってきた方たちはものすごく強いですよ。少々なことではへこたれない。80歳90歳超えても未だに元気ですね。しかし、その後、日本は幸せなことに戦争は無く、我々は死と直面することは少なかった。無菌状態的な子供たちがいっぱい出てきた中で、このような震災が起きたわけです。そういう意味では、東北地区から将来を担うようなすごい人たちが出てくるのではないかと思いますね。普通では体験できないようなことを乗り越えていますから、相当鍛えられていますよ。彼らが日本を変えていくことに期待したいです。それが最大



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

の、転んでもただでは起きないリターンではないかと思えますね。

佐藤 私は 3.11 を経験したことによって、生かされていると感じるようになりました。自分のことよりも周りのこと。周りがある自分が生かされている。そういう風に考えた時に、死に対する恐怖が薄れました。生かされているということは、自分ではどうにもできないわけですから、自分でできることをやっていけばいいわけです。得体の知れない死への恐怖感がとれたことで、前向きに生きるということにすごく力強くなっていきます。

島田 それは岡本さんが病気になって感じたお話とも、通じるものがありますよね。

岡本 私のような小さな経験であっても、死の恐怖感がすごく変わりました。死はいつ来るのかはわからない。でも、今は生きているわけだから、今この時点でどれだけ価値のあることをしていけるか、そこに集中すればいいと心の底から思えるようになりました。そういう意味では、ありがたい体験だったわけです。

佐藤 そういう意味では、将来というよりも今何ができるか、今やっておきたいことに全力を尽くしておきたい、ということですね。そして、今それをやれることへの喜びを感じます。過去にはこれだけの財産があったのに、あれもこれも無くなっちゃったというマイナスの発想は全然ないです。全部失ってみれば後は何ができるかというプラスの発想しかないですね。

岡本 悟ったわけですね。

島田 戦争が終わった後の日本を支えたスピリットはそれじゃないかと聞いていて感じますよね。何も無くなっちゃった後で、先に進むしかないというエネルギー。

岡本 ただ今は、何も無い状態ではなさすぎますよね。何でもあるから逆に失うものが怖いわけですね。その意味で被災された方はいうまでもありませんが、直接、被災することのなかった人たちにも大きな教訓を与えてくれた事件だったと思います。そこからいかに日本全体がポジティブなエネルギーを生み出すか、それが被災された方々へのせめてものはなむけだろうと思いますね。今日は貴重なお話をありがとうございました。

<モデルポートフォリオ：2012年12月末の運用状況>

単位：％

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年 1月～ 156万円
4資産型	積極型	7.22	23.33	-4.84	3.65	15.65	14.08	11.86	6.79	8.90
	成長型	5.54	18.75	-2.47	3.41	11.03	11.51	10.90	9.73	14.23
	安定型	3.85	14.09	-0.39	2.93	7.02	8.91	9.49	11.75	18.46
2資産型	積極型	6.59	27.85	-4.15	5.00	18.15	15.97	18.04	17.09	21.56
	成長型	5.57	22.72	-2.29	4.36	13.29	13.57	14.92	16.39	23.49
	安定型	4.55	17.62	-0.79	3.46	9.14	11.16	11.36	14.36	23.57

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2011年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、2012年11月末の投資資金までとする(2012年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所：イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型	国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)	
	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
安定型	10%	10%	40%	40%	
2資産型	世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)		
	積極型	80%	20%		
	成長型	50%	50%		
安定型	20%	80%			

ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータの算出しています。

特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

4資産型

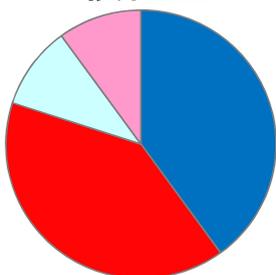
■ 国内株式:
TOPIX

■ 外国株式:
MSCI KOKUSAI

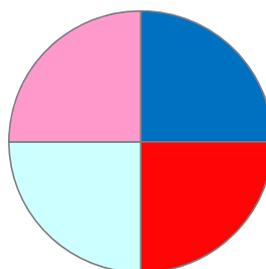
■ 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)

■ 外国債券:
Citi WGBI
(除く日本)

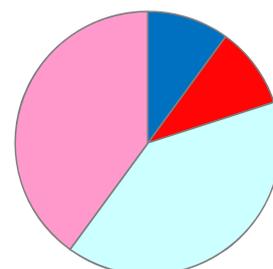
積極型



成長型



安定型

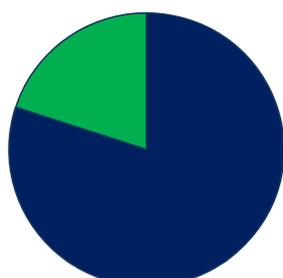


2資産型

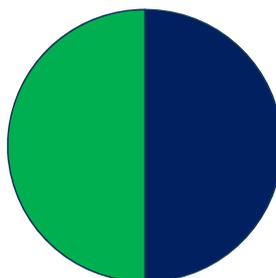
■ 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)

■ 世界債券:
Citi WGBI
(含む日本)

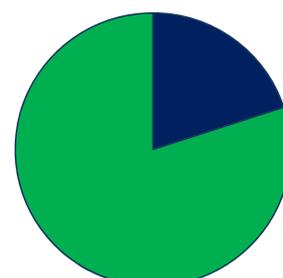
積極型



成長型



安定型



＜純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く)：2012年12月末の運用状況＞

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク 10年 (年率)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2012年 12月末		イボットソン 分類		
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1 月～ 156万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1 月～ 156万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)			
1	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド		8.40	18.71	-8.62	2.01	20.97	11.65	0.95	-10.55	-12.15	13.40	60.57	107.33	137.04	2,589.7	10,454	国内株式・ 大型成長型
2	さわかみ投信	さわかみファンド		10.79	13.15	-7.47	3.38	19.63	11.05	-0.97	-7.77	-2.65	13.33	59.42	110.67	151.87	2,399.3	11,601	国内株式・ 大型ブレンド型
3	日興AM	インデックスファンド225		10.15	24.94	-6.20	2.90	20.89	15.80	9.21	0.20	-1.80	13.90	65.52	120.25	153.19	2,032.8	2,822	国内株式・ 大型成長型
4	みずほ投信	MHAM株式インデックスファンド225		10.18	25.03	-6.28	2.80	20.80	15.83	9.09	-0.15	-2.30	13.90	65.45	119.82	152.41	1,443.6	1,883	国内株式・ 大型成長型
5	ニッセイAM	ニッセイ/パトナム・インカムオープン		5.60	20.36	0.07	1.04	9.32	13.20	16.92	12.94	16.21	13.58	70.15	135.53	181.28	1,433.2	5,860	米国債券
6	日興AM	GW7つの卵		5.87	19.06	-4.78	-	-	11.76	8.59	-	-	13.41	65.16	-	-	1,138.1	7,901	アセットアロケーション・ 積極型
7	DIAM	日経225ノーロードオープン		10.14	24.52	-6.51	2.53	20.81	15.60	8.28	-1.53	-3.98	13.87	64.97	118.17	149.80	1,130.9	6,855	国内株式・ 大型成長型
8	HSBC投信	HSBC ブラジル オープン		12.15	18.28	-8.23	-	-	12.37	10.24	-	-	13.48	66.14	-	-	1,034.4	10,282	外国株式・ 新興国型(単一国)
9	三菱UFJ投信	三菱UFJ インデックス225オープン		10.20	25.02	-6.11	2.99	20.89	15.86	9.37	0.63	-1.29	13.90	65.62	120.76	153.99	908.5	6,426	国内株式・ 大型成長型
10	国際投信	グローバル・ソブリン・オープン(3ヵ月決算型)		5.61	16.62	-1.41	2.09	9.23	11.67	8.17	8.57	18.09	13.40	64.90	130.29	184.22	876.2	6,024	世界債券
11	HSBC投信	HSBC インドオープン		9.15	51.09	-16.04	-	-	26.53	0.69	-	-	15.18	60.41	-	-	841.2	14,066	外国株式・ インド型
12	野村AM	ノムラ日本株戦略ファンド《Big Project-N》		9.33	18.73	-8.90	1.35	19.22	12.37	2.57	-10.12	-	13.48	61.54	107.86	-	795.1	4,888	国内株式・ 大型成長型
13	イーストスプリング	イーストスプリングインド株式オープン		7.30	40.83	-11.82	-	-	20.69	7.00	-	-	14.48	64.20	-	-	768.0	9,964	外国株式・ インド型
14	野村AM	グローバル・ハイインカム・ストック・ファンド		7.54	26.75	-5.15	-	-	17.44	19.35	-	-	14.09	71.61	-	-	764.9	6,320	外国株式・世界型
15	トヨタAM	トヨタグループ株式ファンド		12.12	46.57	-6.44	-	-	24.43	20.03	-	-	14.93	72.02	-	-	730.6	12,576	国内株式・ 地域/グループ型
16	大和投信	ストック インデックス ファンド225		10.17	24.97	-6.24	2.81	20.87	15.83	9.14	-0.05	-2.17	13.90	65.49	119.94	152.61	679.0	4,657	国内株式・ 大型成長型
17	JPモルガン	JPM・BRICS5・ファンド《ブリックス・ファイブ》		11.00	33.54	-5.61	-	-	20.66	24.73	-	-	14.48	74.84	-	-	667.6	16,696	外国株式・ 新興国型(複数国)
18	フィデリティ投信	フィデリティ・ジャパン・オープン		8.40	19.01	-8.62	2.08	21.10	11.74	1.08	-10.40	-11.96	13.41	60.65	107.51	137.34	628.6	7,343	国内株式・ 大型成長型
19	フィデリティ投信	フィデリティ・日本配当成長株・ファンド (分配重視型)		9.37	18.56	-4.16	-	-	12.69	6.53	-	-	13.52	63.92	-	-	599.6	6,375	国内株式・ 中型ブレンド型
20	しんきんAM	しんきんインデックスファンド225		10.12	24.56	-6.53	2.58	20.83	15.63	8.24	-1.49	-3.85	13.88	64.95	118.21	149.99	545.8	7,354	国内株式・ 大型成長型

*対象は追加型株式投資信託のうち12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。

積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2011年12月末に1万円で積み立てを開始し、2012年11月末投資分までの2012年12月末における運用成果とする(2012年12月の積み立て額は入れない)。出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(

<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。